

天領  
----- Tenryo Hita -----  
ひた

日田に春の訪れを告げる「天領日田おひなまつり」。代々当主が京や大阪で買い求めたひな人形を展示



A region under direct control of a Shogunate

Hita became a region under direct control of Hideyoshi Toyotomi during the Azuchi Momoyama period. During the Edo period, it became the center of economy in Kyushu as the home territory of the local governor of the Edo shogunate, and wealthy merchants called Kakeya who supplied goods for the Edo shogunate saw success. Even to this day, the city is referred to as the Little Kyoto of Kyushu, as it retains much of its ancient landscape.



掛屋とは、幕府の公金を扱う金融機関。当時の商売道具であったそろばんや、銀を量る秤なども展示している(写真は廣瀬資料館)



郡代のおひざ元であった豆田町に対し、商業の中心地は隈町。産物店や呉服店などに遠方からも多くの買い物客が訪れていた。写真は、100余年受け継がれた味噌や醤油造りを今も生業としている「原次郎左衛門味噌醤油蔵」

山あい「都」あり  
古くから交通の要衝であった日田。安土桃山時代に豊臣秀吉の直轄地となり、江戸時代には幕府の代官・郡代のおひざ元として、九州における経済の中心をなし、掛屋と呼ばれる幕府御用達の豪商たちが活躍。豆田町・隈町は繁栄を極め、天領文化が開花しました。今でも白壁や瓦屋根の商家が建ち並ぶ豆田町は、当時の地割・町道・水路など、碁盤目状の町割りが残っています。日田にはそんな天領時代の繁栄を物語る町並みが今に息づき、その古い町並みや風情から「九州の小京都」と呼ばれています。

この町並みを残しながら、地域の活性化に努めるまちづくりにも力を注いでいます。平成12年には、下町通り(みゆき通り)で電線の地中化を含む「歴史国道整備事業」が実施され、平成13年には「美しい町並み大賞」を受賞、平成16年には「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

# 天領

〜その伝えるもの〜  
歴史が作られた舞台裏  
ドラマチックな人間模様  
時空を超えた人々の営み  
朗らかで人情に富んだ人々の何気ない毎日が、  
ゆるぎない文化を育んでいる。



江戸期から昭和初期まで、特色ある建築様式が残る豆田の町並み